



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 実用新案登録公報 (Y2) (11)実用新案登録番号

第2584752号

(45)発行日 平成10年(1998)11月5日

(24)登録日 平成10年(1998)9月4日

(51)Int.Cl.⁶

B 60 J 10/04

B 60 R 13/06

識別記号

F I

B 60 J 1/17

D

B 60 R 13/06

請求項の数1(全3頁)

(21)出願番号 実願平3-99347

(22)出願日 平成3年(1991)11月5日

(65)公開番号 実開平5-40016

(43)公開日 平成5年(1993)5月28日

審査請求日 平成7年(1995)3月23日

(73)実用新案権者 000196107

西川ゴム工業株式会社

広島県広島市西区三條町2丁目2番8号

(72)考案者 大石 恭慈

広島市西区三條町2丁目2番8号西川ゴム工業株式会社内

(74)代理人 弁理士 古田 剛啓

審査官 川向 和実

(56)参考文献 実開 平3-53313 (JP, U)
実開 昭60-51272 (JP, U)(58)調査した分野(Int.Cl.⁶, DB名)

B60J 7/00 - 11/00

B60R 13/06

(54)【考案の名称】 ウエザーストリップ

1

(57)【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 ボディ開口縁(1)に取付ける基底部(3a)と、基底部(3a)に結合した中空シール部(3b)よりなるウエザーストリップにおいて、中空シール部(3b)の露出部分の表層を異材質表層(3f)とし、異材質(3f)と他の材質の境界部に材質徐変域(7)を形成してなるウエザーストリップ。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本考案は、異なる材質よりなり、露出面にその境界を有するウエザーストリップに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 図1乃至図3を参考にし、ハードトップ車を一例にして説明する。10は車内側、11は車外側

2

である。従来、ハードトップ車のドアガラス2とボディ開口縁1との間をシールするウエザーストリップとして、芯金8cを埋設したところのボディ開口縁1にタッピングスクリュー6により留める断面逆L字状の基底部8a及びその基底部8aの車内側10下端に結合した中空シール部8bよりなり、その中空シール部8bの露出部分の表層8fと基底部8aを含むその他の部分とを異なる材質で構成したものが使用されている。なお、8dは基底部8aの車外側11先端に設けた鈎状係止部分、

10. 8eは中空シール部8bの車外側11先端に設けた突起部分であって、係止部分8dに掛けて、中空シール部8bの先端を基底部8aに留めるようにしてある。また、4は中空シール部8bの先端外面を覆うドリップモール、5はガーニッシュである。中空シール部8bは、基底部8aとの結合部を軸に折曲げ、必要に応じて上下に

3
回動し、開閉可能にしてある。

【0003】しかしながら、中空シール部8 bの付け根の異なる材質の露出面境界線9に明らかに異なる材質であることを示すスジが生じて、外観が損なわれると言う問題点がある。

【0004】

【考案が解決しようとする課題】解決しようとする問題点は、異なる材質よりなるウェザーストリップ構造は、異なる材質の露出面境界線にスジが生じて、外観が損なわれることである。

【0005】

【課題を解決するための手段】図1及び図4及び図5を参考にして説明する。ボディ開口縁1に取付ける基底部3 aと、基底部3 aに結合した中空シール部3 bよりもなるウェザーストリップにおいて、中空シール部3 bの露出部分の表層を異材質表層3 fとし、異材質表層3 fと他の材質の境界部に材質徐変域7を形成してある。

【0006】

【実施例】実施例について説明すると、1はハードトップ車のボディ開口縁、2はドアガラス、3はボディ開口縁1とドアガラス2との間をシールするウェザーストリップであって、芯金3 cを埋設したところのボディ開口縁1にタッピングスクリュー6により留める断面逆L字状の基底部3 a及びその基底部3 aの車内側10下端に結合した中空シール部3 bよりなり、その中空シール部3 bの露出部分の表層3 fと基底部3 aを含むその他の部分とを異なる材質で構成すると共に、中空シール部3 bの露出部分の付け根で、異なる材質の境界部に、表層3 fの層厚を、車内側10に向かって徐々に薄くした、材質徐変域7を形成してある。なお、基底部3 aの車外側11に鈎状係止部分3 dを設けると共に、中空シール部3 bの車外側11先端に係止部分3 dに掛けて、留める突起部分3 eを設けてある。また、4は中空シール部3 bの先端外面を覆うドリップモール、5はガーニッシュである。

【0007】作用について説明すると、中空シール部3 bの露出部分の付け根で、異なる材質の境界部に、表層3 fの層厚を車内側10に向かって、徐々に薄くした材*

4
*材質徐変域7を形成してあるため、異なる材質の露出面境界部に目に見えるスジが発生せず、外観が向上する。

【0008】

【考案の効果】本考案は以上のように構成されるため、ウェザーストリップ構造の露出面の異なる材質の境界部に、目に見えるスジが発生せず、外観が向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】自動車の側面図である。

【図2】従来例を示す図1のX-X断面図である。

【図3】図2の要部拡大図である。

【図4】本考案の実施例を示す図1のX-X断面図である。

【図5】図4の要部拡大図である。

【符号の説明】

1 ボディ開口縁

2 ドアガラス

3 ウェザーストリップ

3 a 基底部

3 b 中空シール部

3 c 芯金

3 d 係止部分

3 e 突起部分

3 f 表層

4 ドリップモール

5 ガーニッシュ

6 タッピングスクリュウ

7 材質徐変域

8 ウェザーストリップ

8 a 基底部

8 b 中空シール部

8 c 芯金

8 d 係止部分

8 e 突起部分

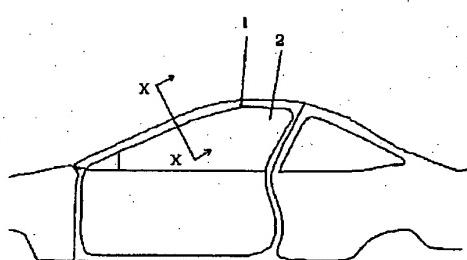
8 f 表層

9 スジ

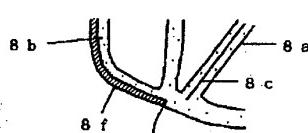
10 車内側

11 車外側

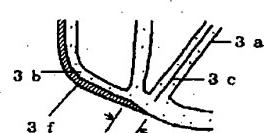
【図1】



【図3】



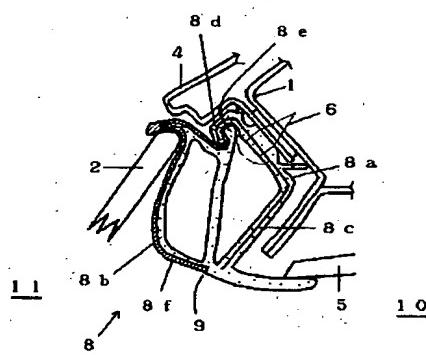
【図5】



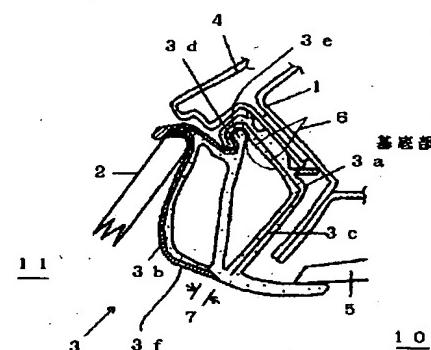
(3)

実登2584752

【図2】



【図4】



THIS PAGE BLANK (USPTO)